

桃李も言わね 此下自ら蹊を成す

◎ 敬愛大学

2019年6月14日(金)

科目名	担当
教育原論	(武内) 教授先生

<教師になるには今何を?>

而今(いま)

〇而(いま)

「他に是れ吾れにあらず」(他人のしたことは、私のしたことになる)

「更に是れの時をか待たん、(今この時を逃し、

木瀬先生

(1950.7.10~)

・柔道、バレー、ソフト、カー

<千葉県教育庁>

<文部省>

<浦安市教育委員会>

<能福>

◎ よい先生 → ~~いい~~

平成29年3月31日に新学習指導要領が

告示されたので、改訂のポイントについて勉強!

子どもが大好きな先生



よい先生

1. 大学の授業を真面目に受ける

2. 小学校教員免許及び中高教員免許取得

教科書通りの授業を実施する上での留意事項とは
小学校の英語教育を推進する上での留意事項とは

教師になるためには、今何をすればいいか?

過去の自分があって今の自分がある。だからこそ、今出来る事とし、ガツとやればいいかなければならないと改めて感じた。特に現在は英語の教育改革が進み、英語力のある先生が求められている。英語の力をつけていかなければならない。必要条件(やむを得ない条件)を持っていていい先生とは言えない。本当にいい先生とは生徒からの人望が厚く、その場にいるだけで教育になれるくらいの人柄がなければならない。このためにも、コミュニケーション能力や知識を身に付けるために色々な人と積極的に関わっていき、読書をしていき、今までの行動を改め、先生になるんだという自覚をもていかなければならない。そして、やはり今最もやらなければならないのは真面目に授業をうけるという事。この事をまずしっかりとらなくてはならない。

教員採用試験について。

今まで見えてこなかったものが、ようやく見れたような気がした。

自分の今できることを一つ一つしっかりやっています。

教育ボランティア等、自分にできることは積極的に参加し、

教師になるために生かしています。

教員採用試験の対策は、3年生からでいいなどと思わず、

今からできることを一つ一つこなしていくことが大切だと感じた。

何事も後回しにしない。できることは済ませる。

人にやらせてもらうのではなく、自分自身でやるのが大切。

児童数が減っているので、今が採用のチャンス！できるだけ早く採用

されるように頑張りたい。

豊か発想、人になるために、何事にも興味を持って、いろいろ

なことを体験していきたい。(ボランティア活動、社会活動など)

新聞を読み、日頃から教育改革の動向を把握しておくこと

も大切だと考えた。

今、自分にできることを全力で全うする

求めている教員像 *責任感 *専門性

苦手科目の高校入試の勉強を今からしていこうと思った

ボランティアは今も積極的に参加しようと思っている

教育関係の本は読むようにしているが「教育新聞」は読むことが

なかったのでも手に取ってみる。

過去問も今から少しずつみていく。(採用試験問題集)

<推薦対策> 小論文対策 新聞を読む 実際に書く

講めろうにならなくていい中高英語頑張る。小中一貫校教育

而今(しうじていま) ... 精神 "今と今" する

「他は是れ吾れにあらず」他人のしつこきは、私のしつこいことにはならない。自分自身

「更にいかれのときが待たん」後回しにする時間はない。

小学校 2万校 → 毎年数百校ずつ減少

どんな人間が出来ていても、専門的な知識

→ 専門教養試験対策 経験でしか身に付かない! (対策は3.4年!!)

→ 英語・社会の中高免許を持つと強い

→ 最新の過去問である必要はない。古いものでOK!

→ 字のキレイは必須!

- 学びを続けられる教員(子どものために) -

- 生涯、先生でいること -

未だ河間町の講義方法を今までの人形授業よりも身がした

具体的な方法から準備まで必要なことは学びながらできた。

目的を定めてやることに全力を注いでいる。後悔のないように何事にも全力で

人に物を教えるためには何が必要かについて判断し知ることが出来る。

教員を兼ねたことはもちろん、後進の指導も出来るように自分の専門知識に力を入れた。

村瀬先生からとても貴重なお話をいただいた。教員採用試験対策が合分が

できること多く士人あるので、どんどん勉強して様々な体験をして

経験をほかの子と分け、そして賢い先生になりたい。

教育原論リアクション (第8回、2019年6月7日) 発達について
番号 196c 氏名

1 前回リアクション (5月31日) を読んでの感想

教育思想の考え方がたくさんあって、たくさん人の意見や考え方があったなあと感じた。
自分は前回のリアクションは上手にまとめられなかったが、楽しくまとめている人が
いてマネをしていけたら良いと思った。よんでいて、おもしろいリアクションを書きたいと思った。

2 発達課題との何か

「人間が健全で幸福な発達をとるために、各発達段階を達成しておかなければならない課題」とあり、
「次の発達段階に進むために、それぞれ発達段階で習得しておくべき課題がある」
また、各段階には、健全と相反する危機が存在し、健全な傾向をのほし、危機を小さくしなければならぬ。

3 乳幼児期に大切な発達課題は何か (「こころの育ちと家族」前半参照)

「特定のひととのあいたに形成される、時間や空間を越えて持続する心理的な結びつき」
子どもは、「世界に対する絶対的信頼」を心の中に育むことができる。「世界に対する絶対的信頼」
とは、「世界は丈夫であり、自分はそのままを受け入れられている」という感覚である。この
安心感というものが乳幼児期に大切な発達課題である。

4 子ども期 (学童期) の発達課題は何か (同上後半参照、テキスト p32-5 参照)

少しずつ自分の世界をもち始める。この時期の子どもを、「ピコクエイ」と呼ばれる。
自分の好きなことを始めたり、異なる「私」の世界をつくる。また、親に「秘密」をつくることも。
楽しむようになる。こうしたスキーマの延長に、「自我体験」と呼ばれるものがある。
さまざまな体験をかきねて、「自分」をつくっていく時期でもある。思春期もあるのだ。
反抗が生じたりする。子どもの意見や親の意見を対峙しているのである。

5 青年期の発達課題は何か (同上最後、他参照、) (アイデンティティ、イニシエーション等)

「アイデンティティ確立の時期」とも呼ばれ、「自分は他の誰とも異なる独自の存在であり、時間的にも、
連続し、何らかの社会集団に属して社会からも認められている」という主体的な感覚を、
獲得する時期だと考える。少し家族から離れていき、家族への向きも少し変化していく。
「大人としての責任と義務がまたそれほど、求められたさまざまな試行錯誤をくりかえす
ことを伴われる時期ともなっている。この時期は、「モラトリウム」と呼ばれている。
自分のやりたいことを探し、業性とのつきあいを体験し、自分らしさを確立する時間でもある。

6 青年期の友人関係は、なぜ大切なのか (多崎つくる君の場合参照)

多崎つくるは、長いあいだ仲良くしていた、4人の友人から離れて、自分が社会に必要とされていないと、
感じていた。しかし、新しい友人ができて、自分の存在が必要だと感じるようになった。友人というのは、
自分の自信をなくすものでもあるが、自信をつけるものでもあるから、大切なのだと考える。
自分の存在が社会には必要なのだということを教えてくれるのが友人である。

7 今の青年は安定志向か? (10年前の武内の記述参照、10前と比べて今は)

今の若者の多くは安定志向であると考えられる。大学生たちの中には、マイクス面を自覚して、
それを越えようとする志向をもっている。青少年の現状とそれをつくりだした
大人な社会の仕組みを冷静にみつめながら、安定志向の青少年の意欲を
ふきだし、支援していくことが求められている。大学生は、新しいこと、今までと
違うことを、チャレンジする人がいると思う。

8 他の方のコメントをもらう

() → 自分とちがうと書いておいて

児童期

二次的言語

二次的言語

教育の目的

教育原論リアクション (第8回、2019年6月7日) 発達について

番号 1960

氏名

1 前回リアクション (5月31日) を読んでの感想

教育に対しては人が行ったことを恥でいらなと恥。私は「予・イ」の考えに強く共感
がもてた。おのれの目的の教育が「予・イ」の考えに近いと恥。特に「発達」という
のが、確かにどうだと恥。そして教育の活動的な場を指すこととどうもいいと恥。

2 発達課題との何か

発達課題とは「人間が健全な幸福な発達をとるために各発達段階で達成しておかなければならぬ
課題」であり、「次の発達段階に進むために、その段階の発達課題を習得しておくべき
課題がある」とされている。

3 乳幼児期に大切な発達課題は何か (「こころの育ちと家族」前半参照)

この大切な発達課題は「特定の個人との間に形成される、時間や空間を越えて持続する心理的
な能力」である。発達段階の境目からすると、子どもにとって入浴の時期は、それは、子どもの心に
心霊が育ちたことを意味する。発達早期の赤ん坊は、一人だけ存在しているのではなく、母親との
存在、子どもの心の中で「世界に対する精神的な信頼」を育むことが大切だ。

4 子ども期 (学童期) の発達課題は何か (同上後半参照、テキスト p32-5 参照)

学童期では少しずつ自分の世界をもち始め、自己意識と呼ばれるようになって、他者を認めてい
たり、自分だけのことを言ったり、競合的の世界とは異なる「私」の世界を築き始める。これら
をこの時期に経験できるか否かが、大人になってからの精神的健康に影響する。こうした心の動
きのなかで、子どもは思春期が到来する。思春期は子どもと大人の境界線上にある不安定な
状態である。自分と他者の距離がとれるようになることを意味する。

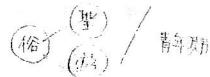
5 青年期の発達課題は何か (同上最後、他参照、) (アイデンティティ、イニシ

エーション等)

青年期は「アイデンティティ確立の時期」と呼ばれ、「自分は他の誰とも
異なる独自の存在であり、時間的にも意識的にも、何らかの社会集団に属
して社会から認められている」という主体的な自覚を体験する時期である。
アイデンティティ構築のためのこの時期は、「エゴリズム」と呼ばれるが、
それは、自分のやりたことを探し、実現しようとするのを体験し、自分ら
しいありかたを探るための時間である。青年は大人へと成長する、大人
への通過儀礼だ。

自己同一性 (自分らしさ)

- ・自分の中で保たれている統一性 (同一性)
- ・それを他者 (意味ある他者) が認める



6 青年期の友人関係は、なぜ大切なのか (多崎つくる君の場合参照)

青年期は「何らかの社会集団に属して社会から認められている」という時期であり、その社会的集団は一番近くて小さい
ものだと友人関係だ。「友人関係」とは、青年期に必要とされる養分をつくり、そのグループから受け取り、成長のための
大事な糧とし、あるいは取り遣いで、非常困難な状況下で精神的に支えたりするもの。そしてつくる君のように「本当の意味で
必要とされている」かは分からなくても、自分が不可欠な存在としての存在価値が保たれている。そしてその分、その親密な共同
体からは排除し、一人取り残されるのではないという安心感をつくることもある。

7 今の青年は安定志向か? (10年前の武内の記述参照、10前と比べて今は)

10年前の武内清の記述によると、この時の青年はそれほど前より安定志向で、青年の意識や行
動を代表する大学生の志向は進歩よりは勉強へとシフトし、真面目化している。それは不足、就職困難期にあ
ける、青少年の精神行弊があり、安定を求めるとある。またアンケートの結果としても約8割の学生が「自分は安
定志向と考える」と答えている。それは不足からなる不安定な環境ではないということも理由だとある。
10年前と比べて今もその「安定志向」は続いていると思う。フリーターが多いことや就職した若者が半年以内
で辞めるなど今でもある。むしろ10年の間をくらべて若者は増えて、安定志向が10年前よりも強くな
っている気がする。

8 他の人のコメントをもらおう

() → 子どもの発達段階について 教育には必要とされているので、覚えなければならぬ
所々で学ぶのがよいとされていると思う。

乳幼児期
下のコメント
二次的言語
できていない
子どももいる